

平成5年度(第1回)特設WID統計セミナー実施要領

JICA
000
214
TOC
BRARY

⑦

平成5年度（第1回）
（特設）W I D統計セミナー
実 施 要 領

（平成5年度のみ実施）

平成6年1月



国 際 協 力 事 業 団
大 阪 国 際 研 修 セ ン タ ー

目 次

1. コー ス 名 等	1
2. コースの目的・背景	1
3. 目 標	2
4. カリキュラム	2
5. 研修員参加資格要件	3
6. 研修実施体制	3
7. 宿 舎	4
8. 研修の評価	4
9. 修了証書	5
10. 研修員の待遇	5
付表 1) 研修日程	7
2) 公開セミナー スケジュール	9
3) 研修員による研修評価表	10
4) 受入実績表	11



1127200 (2)

1. コース名等

- (1) 和文 W I D 統計セミナー
- (2) 英文 Seminar on Statistics and Indicators on Women in Asia
- (3) 期間 平成6年3月8日～3月27日
- (4) 定員 8名 (尚、この他にS I A P 招聘の研修員8名が本セミナーに参加。)

2. コースの目的・背景

(1) 背景

女性の地位向上のための将来戦略を採択した1985年のナイロビ世界婦人会議において、男女の社会的役割やニーズの違いを十分に考慮して開発事業を行うには、男女別統計(性別統計)や経済指標に現れない女性の経済・社会貢献を表す統計が必要不可欠であることが指摘された。

特に性別統計の効果的利用及び統計自体の質を改善するには、統計利用者と製作者の両者が共にこの問題に取り組む必要がある。両者の連絡調整不足は、既存のデータが十分に利用されないだけでなく、情報の不適確な表現、一般の統計利用者による限られた指標の選択をも生む結果となっている。

このような状況を改善するためにINSTRAW(国際婦人調査訓練研修所)はこれまでアジア各国で統計利用者と製作者とが話し合う研修会(ワークショップ)を開き、統計を作成、利用する際に統計上表れない女性の実際の情報収集の為、生活時間帯調査等の統計手法を紹介してきた。

本セミナーは、これら一連のワークショップを受け統計製作者をJICAが招聘し、統計利用者を国連機関であるINSTRAWとSIAP(アジア太平洋統計研修所)が協力し、UNDPの後援を得て招聘するものである。

なお、今回本セミナーがアジア文化圏の中に位置する日本で行なわれることは、各研修員が同じアジアの一員として他の参加国と比較できるだけでなく日本の事例を見聞でき、本課題の共通性と相違性を見出す上で、有用と考えられる。

(2) 目的

本セミナーの目的は、国家統計局等の統計機関職員が女性の経済、社会への貢献度を示す性別統計の重要性を認識することである。さらに生活時間帯調査等を既存のデータをもとに実施し、統計数値と現実との齟齬(ギャップ)などを通じて性別統計とその指標の重要性を認識するとともに、性別統計の改善をはかる手法を学ぶことである。また生活時間帯調査の利用を通してアジアにおける女性の問題が、アジア文化圏における共通の問題であるのか、各国個有の問題であるのか検討することも目的の一つとなっている。

3. 目標

セミナーで研修員は次の目標を達成する。

- 1) 社会、経済面における女性の役割の重要性を理解する。
- 2) 各地域における女性の問題がアジア文化圏において共通か、各国個有の問題であるのか認識を高める。
- 3) 性別統計における概念、手法を用いて直面している問題がどのようなものであるのか理解する。
- 4) 統計製作者は性別統計の製作手法、統計利用者は適切な情報を分析し、紹介・普及する方法を習得する。
- 5) データギャップ（統計上表れない実際的情報）を認識し、このギャップを埋めるための方法について検討する。
- 6) 統計の利用手法とアジア地域の性別統計の質を改善する方法を模索する。
- 7) 性別統計とその有益な統計利用法を統計製作者と利用者が共に協力して、国の政策策定上用いられるような方法を検討する。

4. カリキュラム

各々のプログラムは、次の方法で提出されたカントリーレポートをもとに実施される。

1) カントリーレポート

事前に、参加研修員は性別統計を学びその結果をカントリーレポートとしてまとめあげるプレワークショップマテリアルを配布され、各国2名ずつの研修員（1名はS I A P招聘）がそれに添ってレポートを共同で完成する。カントリーレポートの他に統計製作者は現存する情報の目録を作成する。またどの情報が性別統計化されていないか明確化し、そのデータを広める方法も同様に提示する。

参考：統計利用者（S I A P招聘）は政策策定、実施、モニタリング、評価の為に必要なデータのリストを作成する。

2) ワークショッププレゼンテーションとディスカッション

各カントリーレポートの発表後に、各項目においてディスカッションペーパーが講師によって提出され、共通の問題を明らかにする。各研修員帰国後の業務について、少なくとも2つのテーマに分かれて討議する。2つのテーマとしては“統計の利用方法と質”及び“データギャップとそれを埋め

る方法”等が挙げられる。

3) 公開セミナーへの参加

パネリストとして研修中に理解した日本の現状と各国の状況をもとに討議する。詳細は付表2のとおり。

5. 研修員参加資格要件

1) 応募要件

- a. 大学卒業者、又は同等の学力を持つ者。
- b. 国家統計局、ナショナルマシーナリー、又は他の統計研究所で性別統計の製作者（INSTRAWが中国、インド、インドネシア、マレーシア、バキスタン、スリランカで行った統計ワークショップに参加した者が望ましい）
- c. 十分な英会話及び、英文読解力を有する者。
- d. 心身共に健康で、妊娠していない者。
- e. 軍に従事していない者。

2) 割当国

インド、インドネシア、マレーシア、フィリピン、スリランカ、ネパール、中国、バキスタン、バングラデシュ、タイ

6. 研修実施体制

(1) 研修運営機関

国際協力事業団 大阪国際センター

(Osaka International Centre)

〒 567 大阪府茨木市西豊川 25-1

電話 : 0726-41-6900

FAX : 0726-41-6910

(2) 研修監理業務委託機関

(財) 日本国際協力センター

(JICE : Japan International Cooperation Center)

当センターは、昭和52年に、国際協力事業の実施に関する協力、国際協力に関する広報等において、わが国の国際協力事業の推進に貢献するために設立された公益法人である。

(財) 日本国際協力センター 大阪分室

住所： 〒567 大阪府茨木市中穂積1-1-59 茨木田中ビル5階

電話： 0726-24-8686

FAX： 0726-24-8681

7. 宿 舎

(1) 東京滞在中

国際協力事業団 国際協力総合研修所 (市ヶ谷)

住所： 〒162 東京都新宿区市谷本村町10-5

電話： 03-3269-3201

FAX: 03-3269-2054

(2) 大阪滞在中

国際協力事業団 大阪国際センター

住所： 〒567 大阪府茨木市西豊川25-1

電話： 0726-41-6900

FAX: 0726-41-6910

8. 研修の評価

主として、本コースで設定した到達目標をどの程度達成できたかという視点から、研修を構成する諸要素について、評価を行なう。その結果は、次年度以降のコース改善に役立てることとする。

(1) ファイナルレポート

国際協力事業団所定の様式を用い、コースに参加した研修員が研修全般についての所感をとりまとめる。

(2) デイリーエバリュエーション

a. 講師による評価

付表-2の評価表を使用して、講義、実習、見学等を担当した各講師の所感をとりまとめる。ファイナルレポートと相互補完の形で研修の全体評価の資料とする。

b. 研修員による評価

付表－３の評価表を使用して、コースに参加した研修員の各講義、及び見学についての所感をとりまとめ、ファイナルレポートと相互補完の形で研修の全体評価の資料とする。

9. 修了証書

このコースを修了した研修員に対し、国際協力事業団は修了証書を授与する。

10. 研修員の待遇

(1) 入国資格

日本で技術研修を受けるために来日する者。なお、日本滞在中は日本国法令の適用を受ける。また、働いて収入を得ることは出来ない。

(2) 滞在費

国際協力事業団の規定に基づき、本コースの研修員に滞在費、その他が支給される。

- a. 各国の国際空港から東京及び大阪間のエコノミークラスチケット
(原則として帰国時は大阪国際空港から出国)
- b. 国際協力事業団の研修センターにおける宿泊の場合、生活費として一日当たり4,100円を支給
- c. 国際協力事業団指定民間ホテルにおける宿泊の場合、生活費として一日当たり4,841円を支給
- d. その他 支度料(30,000円)、書籍費(7,000円)、資料送付料(6,000円)を来日時に支給
- e. 日本に到着後、発生した傷病に対する医療費
- f. 研修旅行に伴う費用として運賃の外に、生活費4,841円/日を支給
- g. 研修のための移動に伴う通勤費等

- h. 研修旅行を含めたホテル宿泊料については、国際協力事業団よりホテルに直接支払われる。尚、国際協力事業団指定外民間ホテルを利用せざるを得ない場合、宿泊料の実費を支給。

研 修 日 程

研修コース名 (集団・個別・準高) : WID統計セミナー

研修期間 : 平成6年3月8日～平成6年3月27日

月日	曜日	時刻	形態	研修内容	通訳率 (%)	氏名	講師または見学生担当等		研修場所・旅行行程	宿泊先 (TEL)
							所属	TEL		
3/8	火			来日					OSIC 0728-41-6900	
9	水			研修/プロシナムフォーラム アフリカ・アジアの 開発と女性の関与		久保田 真弓	真谷大学講師 コーディネーター	大阪国際センター (OSIC)	"	
10	木	10:00	講義	性別平等に関する 国際的な動向	0	Mercedes B. Concepcion	INSTRAW	"	"	
10	木		講義	開発と女性の関与 に関する国際的な 動向	0	Corazon P. Marquez	INSTRAW	"	"	
10	木		合計	開発と女性の関与 に関する国際的な 動向	0			"	"	
10	木			カンパニートレー ニング	0		ESCAP	"	"	
11	金		講義 合計	開発と女性の関与 に関する国際的な 動向	0	Mercedes B. Concepcion	INSTRAW	"	"	
11	金		合計	開発と女性の関与 に関する国際的な 動向	0			"	"	
12	土			休日					"	
13	日			休日					"	
14	月	10:00 12:00	講義	開発と女性の関与 に関する国際的な 動向	0	田口 晶子	国際労働機関 当座事務員	大阪国際センター (OSIC)	"	
14	月	13:00 15:00	講義	開発と女性の関与 に関する国際的な 動向	0		JICAジュニア 専門家	"	"	
14	月	15:00 17:00	講義	開発と女性の関与 に関する国際的な 動向	0	久保田 真弓	真谷大学講師	"	"	
15	火		講義	開発と女性の関与 に関する国際的な 動向	0	Corazon P. Marquez	INSTRAW	"	"	
15	火		合計	開発と女性の関与 に関する国際的な 動向	0			"	"	
15	火		講義	開発と女性の関与 に関する国際的な 動向	0	Andrew Earl		"	"	

研修期間：平成6年3月8日～平成6年3月27日

月日	曜日	時刻	形態	研修内容	参加率 (%)	講師または見学者先担当等		TEL	研修場所・旅行行程	宿泊先 (TEL)
						氏名	所属先および職位			
3/5	火	1		女性の経済社会への生活時 間管理の調査の調査	0	Andre Harvey Meena Acharya	"	"	OISC 0726-41-8900	
3/6	水	1	調査	女性の保健技術 ワークショップ	0	Meena Acharya	INSTRAW 01-809 -685-2111	大阪国際センター(O.S.I.C)	"	
1	水	1	討論	ワークショップ	0	"	"	"	"	
1	木	10:00 12:00	調査	女性の就業状況(1)の 向上(1)の 位置に於ける女 性の就業状況			大阪府生活文化 女性政策課 06 -941-6048	"	"	
1	木	13:30 16:30	調査	就業状況への取り組 み(1)による生活 時間管理調査		三矢 夏子	NHK放送文化研 究所世帯調査部 03 -5400-8868	"	"	
1	金	1	発表 行	ワークショップ プレゼンテーション			INSTRAW	"	"	
1	土			休日				"	"	
2	日		移動	大阪 → 東京				O.S.I.C → 茨木 → 京都 → 東京 → 市ヶ谷 → T.I.C.I	T.I.C.I 03-3259-3201	
2	1	14:30 16:30	見学	女性の就業状況(2)の 向上(2)の 位置に於ける女 性の就業状況 の調査(1)の調査 の進捗状況(1)の調査 の進捗状況(1)の調査 の進捗状況(1)の調査				市ヶ谷 ← → 池袋 ← → 武蔵嵐山 ← → 国立婦人教育会館	"	
2	2	10:00 12:00	調査 見学	就業状況(2)の取り組 み(2)の調査 の進捗状況(2)の調査 の進捗状況(2)の調査				労働省婦人局	"	
2	2	14:00 16:00	見学	就業状況(3)の取り組 み(3)の調査 の進捗状況(3)の調査 の進捗状況(3)の調査	0	S. Ananda Meena	公平性統計 研究所所長 03 -3356-8035	"	"	
2	3	13:30 18:00	発表 討論	公開セミナー	100	坂東 真知子 他	総務省婦人問題担 当官 03 -3851-5003	"	"	
2	4	10:00 12:00	見学	就業状況(3)の取り組 み(3)の調査 の進捗状況(3)の調査 の進捗状況(3)の調査			総務省統計局 03 -5273-1116	"	O.S.I.C 0726-41-8900	
2	4	PM	移動	東京 → 大阪				"	"	
2	5	10:00 13:00		評議会 / 閉講式			0126 -41-8900	大阪国際センター(O.S.I.C)	"	
2	6			休日				"	"	
2	7			休日				"	"	

付表 2)

「開発における女性の参加」
—— アジアにおける女性の地位向上に果たす統計の役割 ——

公開セミナー スケジュール (案)

13:30~14:15 セッション1 (オープニング)

開会の辞

— JICA企画部長 or 研修事業部長

基調講演

— INSTRAW

— 総理府婦人問題担当室長 坂東真理子

司 会

— JICA環境・女性課課長

14:15~16:00 セッション2 「開発途上国における女性の現状と
女性の地位向上のための取り組み」

— INSTRAW

— JICA

— カントリーレポート (1)~(4)

— 質疑応答

進 行 龍谷大学講師 久保田 真弓

16:00~16:15 コーヒーブレイク

16:15~17:45 セッション3 「女性の地位向上のための
統計の役割と可能性」

— 日 本

— INSTRAW

— カントリーレポート (5)~(8)

— 質疑応答

進 行 SIAP講師 H. アルボレダ

17:45 総 括 JICA/SIAP

附表 3)

Evaluation by Subject (Training Progress Report, OITC) A-①

*This sheet is to be submitted by the first day of the following week.

Course: _____
Your Name: _____

Date	Subject	① Coverage	② Level	③ Materials	④ Applicability	⑤ Communication	Suggestion
		A	A	A	A	A	
		B	B	B	B	B	
		C	C	C	C	C	
		A	A	A	A	A	
		B	B	B	B	B	
		C	C	C	C	C	
		A	A	A	A	A	
		B	B	B	B	B	
		C	C	C	C	C	
		A	A	A	A	A	
		B	B	B	B	B	
		C	C	C	C	C	
		A	A	A	A	A	
		B	B	B	B	B	
		C	C	C	C	C	
		A	A	A	A	A	
		B	B	B	B	B	
		C	C	C	C	C	

Coverage A:right B:too broad C:insufficient Level A:right B:too advanced C:too elementary Materials A:useful B:not so useful C:useless Applicability A: just applicable B:applicable with modification C:not applicable Communication A:sufficient B:little difficulty C:insufficient

付表4)

平成5年度 W I D 統計セミナー
受入実績表

回数 国名	第1回		合計(実績)
	1993 平成5年		
	応募	実績	
インドネシア	2	1	1
マレーシア	3	1	1
フィリピン	3	1	1
タイ	1	1	1
中国	1	1	1
バングラデシュ	2	0	0
インド	0	0	0
ネパール	2	1	1
パキスタン	1	1	1
スリ・ランカ	2	1	1
合計	17	8	8

8カ国：8名



